

ではグラフ上に現われたものと考察したい。

6. むすび

今回の調査はゴムの温度特性が基礎であるから実際のゴム気球温度を用いるのが理想であるが、そのような資料は作られていないためやむなく地上気温を代用した次第である。しかしながらこれでも相関の有意性は充分えられたものと思う。

破裂高度の季節的変動は、保管中のゴム気球の温度が外気温の変化に伴って 11°C 以下になったとき、分子鎖構造の形態が結晶化に転移して弾性を減少させ、ひいては破裂高度の低下をきたすもので、ゴム分子鎖の温度に対する特異性に起因するものであると考えられる。

このため冬季倉庫の室温が 11°C 以下に下がるところでは、保温設備を設けるなどして保管温度に注意し、つねに気球の性能を発揮できる最良の状態のもとに管理しておくことが大切である。ただし 35°C 以上の場合には逆にゴムの老化作用を促進することになるから好ましくな

い。

本文のはじめに気球の使命は目標の高さに到達することであると述べたが、このことは気球を作る技術者の日夜たゆまぬ努力と、使用する者の細かい配慮とがあいまってはじめて達成されるもので、この報告が関係者に多少なりとお役に立ち、かつ諸兄のご批評をいただければ幸いである。

おわりに本文を記すについて終始厚いご指導とご配慮をしていただいた有住高層課長ならびに高層課関口郎調査官に深く感謝の意を表する次第である。

参 考 文 献

1. 栗原福次, 及川郁朗 (1966) ポリマーの友 12 P.P 575~581.
2. 金子秀男 (1964) 応用ゴム物性論 12講
3. ゴム検査協会編 (1964) ゴム検査法

第 14 期第 18 回常任理事会議事録

日 時 昭和43年 3月21日 15.00—19.30
 場 所 気象庁予報部長室
 出席者 島山, 北岡, 小倉, 根本, 岸保, 神山, 小平, 桜庭, 大田, 朝倉 (常任理事), 孫野, 磯野 (地方理事)

議 題

1. 学会賞・藤原賞受賞者の決定
 理事の投票はつぎの通りである。
 学会賞 浅井富雄会員 (可とするもの15, 保留2)
 藤原賞 坂上治郎会員 (可とするもの14, 保留1, 否2)
 受賞者選定規定 (4) により上記会員に受賞はきまった。
2. 朝日奨励金の推せん 渡辺貫太郎, 土屋清会員から申入れがあった。討論した結果適当と認められるので学会として推せんする事にきまった。
3. 来年度の予算について 予算案について会計理事の説明があった。今後5か年間は値上げしないことを原則にして、くんである。従来の予算にくらべ印刷費, 発送費 (外注), 総会費, 支部交付金, 職員退職積立金などが増額された。
 事務局は会計 (中島), 庶務 (柴田), 編集 (八塚)

の3人によって構成され, 各人協力しあって学会事務を行なう。理事会にはこのうちの1名が常時出席し, 次第に事務局的性格の仕事を受け持って貰う。編集の仕事については給料の件も含め, 総会後にきめる。

事務局の発足については, 会計, 庶務理事が相談する。なお, 気象協会にある藤原賞基金 100万円から5万円をもらっているが, 少ないので, メタル代程度まで増額する必要がある。

予算案はつぎの全国理事会で再度検討する。

4. 名誉会員について
 規約にあるが, その運営方法がはっきりしないので, 内規を整える事が望ましい。この件については次期の理事会に申し送る。
5. 学生会員について
 前回の常任理事会の原案をもとにして, 地方理事を含め討論した。その結果, 学生会員は毎年4月30日までに在学証明書を付けた本人の申請によってつぎの総会に議題として提出する。
6. 気象集誌編集委員 新田尚会員を追加する。
7. 選挙について
 より多くの新しい会員が理事会活動に参加することが望ましいという基本的な考え方は認められた。